

Hand Parts 1) This is a hand.

2) This is **the thumb**.

3) These are **the fingers**.

4) These are **fingers**.

5) a) This is a finger. b) This is **the pointer** finger.

6) a) This is a **finger**. b) This is **the middle** finger. (taboo sign!)

7 These are fingers.

8) a) This is a finger. b) This is the ring finger.

9) a) This is a finger. b) This is **the little** finger.

This is a hand.

This is the thumb.



These are the fingers.

EP1-p10

This is a hand.

This is the thumb.

This is a finger.



These are fingers.

This is the ring finger.

These are fingers.



英語の世界観 私達はことばを通して世界を見ている。そして使うことばによって、見えてくる世界が異なることがある。

英語の世界観とはどのような世界であろうか。普段意識しないことばから、その世界観を探りたい。現在ときどきロンドン記事アップ中♪ <https://ameblo.jp/english-worldview/entry-10087958543.html>

人間の進化とことばー"opposable thumb" 今日は人間の進化とことばについての話です。ことばの起源は色々説が

あって、まだ分からないことだらけです。恐らく一生分からない問題かもしれません。今日の話は、言語学で一部言われていることです。猿は四足歩行で、主に木で暮らし、草食と言われています。この猿から人間への進化の変化が、ことばと関係しています。... まず二足歩行になって、木から地上で暮らすようになります。そして草食から色々なものを食べるようになります。動物の肉を食べるためには狩りをしなければなりません。草であればただ手でとればよかったのですが、狩りとなると武器が必要になってきます。... ここで"opposable thumb" ということばがカギとなります。このことばは、日本語でぴったりの訳語はないようです。意味は、「同じ手で他の指と向き合わせることができる親指」のことです。これは何かを握る時に必要になります。犬や猫にはこれはありません。... "opposable thumb" があることによって、武器を作って使えるようになったと言われていいます。そして共同で狩りを行う時に必要になるのがことばです。獲物を追いかける時に合図が分からなければ、狩りがうまくいきません。... こういった環境から意思疎通がよくなるにつれ、狩の成功率も上がっていったと考えられます。そして二足歩行になったことによって、喉の角度が垂直になります。これによって色々な音が発生できるようになったと言われていいます。動物が人間のようにしゃべれないのは、身体的な構造が原因の一つなのでしょう。... 動物と人間をわける基準とされていることばは、人間の進化の中で発達していったと考えられます。現在当たり前に使ってることばは、大変な過程を経て発達したと考えると、やはりことばは大切にしなければならないと感じます。また、ことばを使えるようになって、様々なものを生み出していることに改めて感心です。ことばなしには、今身近にあるものはほとんど存在しないでしょう。

今日は人間の進化とことばについて見てみました。

The Panda's Thumb: ... グールドの本は何をとりあげても絶品だが、やはりここでは評判になった「**パンダの親指**」...パンダには一見すると6本の指があるように見えるものの、6本目の「親指」にあたるのは、撓側種子骨というふつうは小さな骨が異常に発達したものだという話にすぎない。グールドはこれを枕に、生物にはこうした「**痕跡器官**」や「**形態進化**」の謎を孕んだ進化の複雑性に満ちている本題に向っていく。
<https://1000ya.isis.ne.jp/0209.html>

南九州大学の図書館の本： **ぼくは上陸している：進化をめぐる旅の始まりの終わり** スティーヴン・ジェイ・グールド著；渡辺政隆訳 上,下.- 東京：早川書房, 2011.8： **神と科学は共存できるか?** スティーヴン・ジェイ・グールド著；狩野秀之, 古谷圭一, 新妻昭夫訳 [東京]：日経BP社.- 東京：日経BP出版センター, 2007.10： **マラケシュの質化石：進化論の回廊をさまよう科学者たち** スティーヴン・ジェイ・グールド著；渡辺政隆訳 上,下.- 東京：早川書房, 2005.11

動物が話せたら? I have often wondered what turkeys would think of Christmas if they were capable of thought. I am afraid they would hardly regard it as a season of peace and goodwill. 七面鳥に思考能力があったならば、彼らはクリスマスはどう考えるだろうかと、私はよく疑問に思う。残念ながら、彼らがクリスマス平和と善意の季節だとはほとんど考えないだろうと思う。...

There is no impersonal reason for regarding the interests of human beings as more important than those of animals. We can destroy animals more easily than they can destroy us; that is the only solid basis of our claim to superiority. 人間の利益が他の動物の利益よりもより重要だとみなすに足る客観的理由はまったくない。動物が我々人類を滅ぼしうるよりもより容易に我々人間は他の動物を滅ぼしうる。これが我々人類の他の動物に対する優越性の唯一の実質的根拠である。 From: Of Mortals and Others, Bertrand Russel: 1931-1935
<https://www.russell-j.com/CON-MOR2.HTM>

